

大泉高齢者相談センター 地域ケア個別会議 取組状況と課題

主催・日時・会場	主な参加者・数	テーマ	検討事項	検討結果	把握された課題
やすらぎミラージュ支所 平成29年1月12日(木) 13:30~15:30 やすらぎミラージュ 地階会議室	民生委員、町会役員、 石神井消防署、主任介護 支援専門員、介護支援 専門員、訪問介護、 通所介護、生活支援 員、行政職員、高齢者 相談センター(本所・ 支所) 計15名	防火に対する意識に欠 ける高齢者への支援や 対応	・集合住宅の部屋に物 が多く置いてあるにも 関わらず灯油ストーブ を使用している事例に ついて、防火への取り 組みを拒む高齢者への アプローチの方法を確 認する。	・練馬区や消防庁が行う取組について、各関係者で共有す ることができた。 ・支援やアプローチの方法は対象者によって千差万別である が、いろいろな関係者との関わりが必要性が確認できた。 ・個人情報保護により、情報共有に課題はあるが、消防署等 の専門機関への相談は有効であることについて確認できた。	・消防署に相談する事で、消防署としての記録が残ることは 有効である。防火防災診断等の取り組みについて、さらなる 周知を行う必要がある。 ・防燃品等の普及の取組があると良い。 ・火災のリスクが高い世帯を各機関が共有することで、普段 からの防災の意識付けに繋がりたいところであるが、個人情報 保護により、実際に共有することは難しい。
ふきのとう支所 平成28年11月22日(火) 15:00~16:30 ふきのとう支所会議室	医師、近隣住民、町会 役員、緊急通報サービ ス会社、薬剤師、NPO身 元保証会社、主任介護 支援専門員、権利擁護 センター、行政職員、 高齢者相談センター (本所・支所) 計18名	もの忘れの自覚がない 高齢者を地域の方が 個々に心配しながら関 わっている事例~ご本 人が住み慣れた地域・ ご自宅で生活をしてい くための情報共有と支 援について考える~	・個々が把握している 情報を共有し、支援の 方向性を導き出す。 ・関係機関との関係づ くりと連携体制づく り、練馬区の高齢者福 祉サービスについての 情報提供を行う。	・会議を通じて、認知障害の程度や症状、地域の方々の心配 事等の情報を共有する事ができた。また、その情報を受け、 専門機関それぞれの立場から、支援方法の提案があり、支援 の方向性を導く事ができた。 ・関係者がそれぞれ気付いた事があった際に、その報告や情 報共有が出来る、お互いに顔の見える関係、連携体制を構築 する事ができた。 ・練馬区の高齢者福祉サービス等、必要な情報を共有する事 ができた。	・地域の方による見守りネットワークが重要な役割を担って おり、さりげない見守りが大事である。 ・本人の病識がないため、現段階では医療的な支援が難し く、MCIに対する働きかけが出来ていないため、どのように医 療的な支援を行っていくか検討する必要がある。 ・緊急時(特に入院等になった場合)に対応できる親族等が いない。
大泉学園支所 平成28年12月1日(木) 13:30~15:00 大泉総合福祉事務所	民生委員、主任介護支 援専門員、介護支援専 門員、訪問看護師、通 所介護、中途障害者通 所事業、高齢者相談セ ンター(本所・支所) 計17名	必要な支援を拒む方へ のアプローチについて	・自暴自棄な言動が多 い方の意向を高める方 法、必要な支援を拒む 本人に対しどのように 合意を取っていくか、 支援者としての気づき を得る。 ・高次脳機能障害の理 解を深める。	・高次脳機能障害の方の在宅継続について、阻害要因をある 程度明らかにすることができた。 ・必要な支援を拒んでいる状況を支援者側がどう理解するか ということの共有や、高次脳機能障害と認知症の違いについ て再確認することができた。	・障害分野との隔たりをなくすためにも、地域で埋もれてい る人材や資源を発掘、活用しつつ、障害分野との関わりにつ いて積極的に行っていく必要がある。 ・高次脳機能障害の方への社会資源が不足している。 ・高齢、障害の分野を越えた、広く横断的な視点や、横断的 な能力を持つ人材の育成も急務である。
光陽苑支所 平成29年1月30日(月) 14:00~16:30 大泉総合福祉事務所	民生委員、動物病院獣 医師、東京都動物愛護 相談センター、NPO 法人、主任介護支援専 門員、介護支援専門 員、通所介護、福祉用 具、行政職員、高齢者 相談センター(本所・ 支所)計24名	高齢者とペットの問題 について考える	・要介護5の母親を介 護していた主介護者が 脳血管疾患で倒れた事 により、様々な問題を 抱えている事が分かっ た事例について、ペッ ト問題等の対応策の共 有や連携について考え る。	・各関係機関から動物側から考える「高齢者とペット」につ いて、貴重な意見や助言をいただく事ができた。 ・地域の民生委員をはじめとする、実際に生活されている方 が感じるペット問題や、高齢者を支援する側として感じてい る悩み事や関心事について意見交換、共有する事ができた。 ・高齢者、動物、双方からの意見交換を行い、協力し合う事 で新たなネットワーク構築を行う事ができた。また、各専門 機関それぞれの役割について確認する事ができた。	・高齢者とペットの問題は社会問題化している。今回のよう な事例について、高齢者側、動物側の双方の関係者が協力し 合える体制づくりや仕組みづくり、また情報共有を図る必要 がある。
大泉支所 平成29年2月28日(火) 10:00~12:00 大泉総合福祉事務所	民生委員、アパート自 治会長、生活支援員、 主任介護支援専門員、 介護支援専門員、社会 福祉協議会、行政職 員、高齢者相談セン ター(本所・支所)計 17名	気づき“あい”のある まちをめざして~東大 泉第2アパートの事例 を通じて考える~	・高齢化率の高い団地 の現状を地域課題とし て捉え、当該団地の自 治会を含め地域の関係 者で情報を共有し、連 携を取れる関係づくり を構築する。	・自治会長に民生委員の活動や介護保険サービスの事業所 等、地域の様々な資源が団地に住む高齢者に関わっている事 を知っていただけた。 ・団地の強みとして自治会が組織され新しい入居者や世帯状 況を自治会長が把握をしているが、高齢化により自治会活動 に支障が生じている。交流関係は様々だが、良好な関係を持 っている方がいる一方、交流がなく引きこもっている方 いる等、団地の抱える課題を参加者で共有する事ができた。	・今後も自治会との関わりを深め、顔の見える関係づくりを 構築していく必要がある。 ・次年度の自治会総会への出席等、高齢者相談センターと自 治会で課題を共有し検討する場を持つ必要がある。 ・今後、ますます高齢化が進んでいくため、個人情報の課題 はあるが、相談や支援にスムーズに繋がれることが重要で ある。